私見創見 Thursday

無理と面倒

どちらも頑張ろう！

畑山　篤

はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

志学塾塾長

この地域の子どもたちは、厳しい寒さを乗り越えて卒業し、校庭の桜が芽吹く頃、新たな学び舎に入学する。今年も桜の咲く季節がやってきた。私は毎年、小さな桜の芽に気づき、春の訪れを知り、長い冬の間に我慢し、努力した子どもたちに想いを巡らす。

志学塾にもピカピカの小学1年が入塾した。名前を呼ばれたら元気に「はい」と返事をし、指先までピンと伸ばして〝気をつけ〟ができる。子どもの元気が、私たちを新鮮な気持ちにしてくれる。

しかし、安心、安全、便利な豊かさの中で育ってきた子どもたちは、親の世代が子どもだった頃に比べると、高校生は中学生、中学生は小学生かと思うほど、思考や言動が幼いと感じる。

小学コースで、自分の将来について聞いてみた。プロ野球の選手、雑誌のモデル、先生…。はにかみながらも、教室中に響く声で夢を語った。

小学4年の男子は、「野球部に入りました」と教えてくれた。私が「ポジションは？」と聞くと、「はい、バッターです！」と自信満々。「うん？ではピッチャーとキャッチャーは誰？」と優しく尋ねた。「はい、ピッチャーは順番ですが、キャッチャーは教頭先生です！」と背筋を伸ばした。少子化の時代、学校の部活動も苦労が多いことが伝わってきた。

中学コースも新たなメンバーを迎え、自己紹介から始めた。私は「新しい学年に進み不安なことはないか」とクラス全体に尋ねた。中学1年の女子が真顔で「友達は何人まで作っていいんですか？」と不安そうな表情をした。

確かに、新しい環境を前に率直な気持ちだろう。しかし、友達が何人―というのは、中学ではなく小学1年の悩みではなかったかと思う。

毎年4月の入塾面談では、保護者から「新しい生活に慣れるまで無理はさせたくないので…」という言葉をよく聞く。ゆとり教育世代になり、親の言葉を真に受けて、やればできることも「面倒だから」と言って「無理」をしない子が多い。

先日の中学コースでは、自己紹介の後、黒板に「二足の草鞋（わらじ）」「出る杭（くい）」と大きく書いた。「さあ、新学期を迎えた。例えば、二足の草鞋を履いてみたり、出る杭になり、打たれたり…。もし目の前に進むべき道がいくつかあれば、どちらかではなく、どちらも、まずやってみよう！」と話し掛けた。

中学3年男子は「勉強と部活の両立で失敗ばかり」と頭をかいた。中学3年女子は「同時通訳になりたいと言ったら親から『ムリ！』と言われました」と苦笑い。

私は「やがて中学から、高校、大学へと進む。成長とともに夢も変わる。卒塾生で、成績上位でもないのに中学から医者を志した女の子が、高校2年で数学者を夢見て、高校3年で金融工学を知り、難関国立大学に進んだ子もいる。その子が進路に迷ったとき、塾長は難しい道を選べ、今よりも上を狙えと話した。君たちは今が一番成長する！」と結んだ。

学校は週休2日制となり1年の約45％が休みだ。便利すぎる豊かな生活は、子どもが家や部屋の中で過ごす時間を増やし、他者との関わりの乏しい環境を作っている。

子の心身の健康を案じての「頑張りすぎないで」という親心が、やろうとすればできることまでも、今は「無理」に頑張らなくてもいいという子の口実を許してしまう。

何事も面倒だから先送りでは、世の中の困難に直面できない未経験な子どもが社会に巣立つことになる。

本来、中高生は、ちょうど子どもの最後と大人の始まりの多感な時期だ。困難を承知で強引に頑張り、乗り越え、大きく成長する。小さな失敗を誰よりもたくさん、誰よりも速く繰り返す―。まさに骨身に染みる経験を積ませたい。春は、夢に向かって花開く芽吹きのチャンスだ。

拉致提起へ

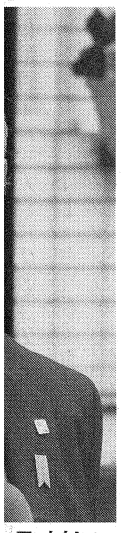
ンス」「確約を」

家族ら事態打開期待

「千載一遇のチャンス」「被害者を帰す確約を」。日米両首脳が米朝首脳会談で日本人拉致問題を提起することで合意し、トランプ米大統領が問題解決に向けて「ベストを尽くす」と明言したことを受け、拉致被害者の家族からは18日、硬直化した事態の打開を期待する声が上がった。

【5ページに本記】

「拉致を議題にすると同時に、被害者を必ず日本に帰す確約を取ってもらいたい」と強調するのは、田口八重子さん＝失踪当時(22)＝の兄で家族会代表の飯塚



取材に
族会代表
日、埼玉

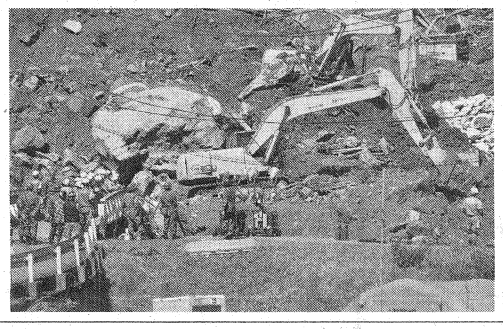
1978年に鹿児島県の海岸で行方不明になった市川修一さん＝同(23)＝の兄健一さん(73)は、昨年来日したトランプ氏と面会したことに触れ「被害者が家族の元に帰るよう努力すると言ってくれた」と振り返り、「米朝会談で拉致問題を提起してくれるのはありがたい。苦しんできた40年、逃してはいけない千載一遇のチャンスだ。進展を願うしかない」と話した。

有本恵子さん＝同(23)＝の父明弘さん(89)は「決断力のあるトランプ氏に期待していた。家族にとって大きな追い風だ」と歓迎。日本政府に対しては「安倍晋三首相には北朝鮮への説得を続けてもらいたい」と要望した。

新たに女性遺体
犠牲者計4人に

大分・山崩れ

大分県中津市の3人が死亡した山崩れで、崩落した土砂の量は民間測量会社が実施した調査で10トンダンプカー1万台分を超す、6万立方メートル以上と推定されることが18日、分かった。現場では同日午前9時すぎに、雨による中断から約18時間ぶりに捜索を再開。午後10時ごろ、新たに女性1人の遺体が見つかった。死者は4人となった。発生から10週間が経過し、関係者は犠



重機を使った捜索が再開された山崩れの現場＝18日、大分県中津市耶馬渓町

場では18日、約10台の重機が土砂を少しずつかき分けた。二次災害の危険が高いため、捜索隊員はやや離れた場所で見守りながら対応した。

現場を視察した中津市の奥塚正典市長は、捜索の責任者から説明を受けた後、記者団に「多くの土砂が残り、厳しい状況には変わりない」との認識を表明し、被災地域への生活支援にも力を入れる考えを示した。

腹部分で、最大で幅約110メートル、斜面から深さ20メートル以

海賊版サイトの広告配信を停止

ソフトバンク系企業

一つのサイト「漫画村」については昨年、同社システムを採用してる別の企業が配信していることが分かり、対策をしていたという。同社は警察捜査に協力していることも明らかにした。

▼君が代不起立、二審も停職取り消し　東京都立学校の卒業式と入学式で2010～13年、君が代斉唱時に起立せず、懲戒処分を受けた教員と元教員が処分の取り消しなどを求めた訴訟の控訴審判決で、東京高裁は18日、6人の停職と減給処分を取り消した一審東京地裁判決を支持し、都の控訴を棄却した。杉原則彦裁判長は「停職や減給処分は裁